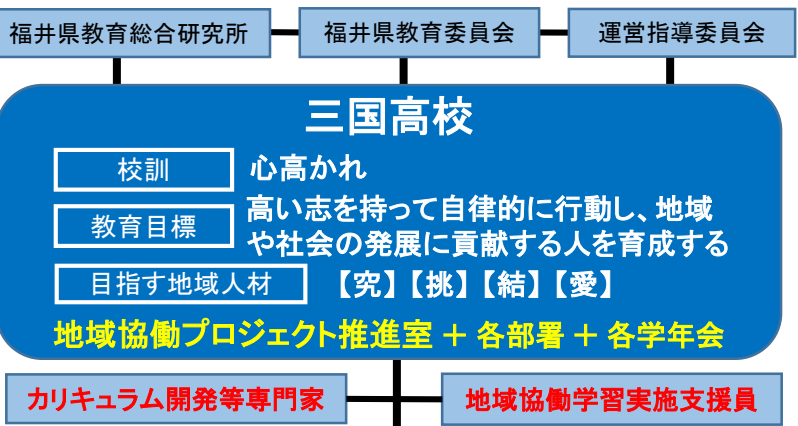


**「あったらいいね」をカタチにする！ ～シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる～**

**【研究開発の目的】**

地域にある**資源を活用**して**地域活性化**に資するプロジェクトを**地域人材と協働**で実施することを通して、**当事者意識**を持って地域の**未来を創造**することのできる人材を育成する**実践的な探究学習**のためのカリキュラムを開発する。



**【本事業における具体的な取組み】**

- (1) 地域協働プロジェクトを推進**  
三国高校生が地域人材と協働して、地域活性化のために活動
- (2) 地域協働協議会『ワクワク未来考場』の実施**  
コンソーシアム関係者、地域住民、中学生等と三国高校生が地域の未来について懇談 <例> 子供向け『海の授業』の企画など
- (3) 『三国高校コミュニティデザイナー』の資格認定**  
地域協働プロジェクトの取組み成果に応じて認定  
コンソーシアム・地域内の大学・企業等に資格の内容を周知し、進学・就職の際に評価  
坂井市に『坂井市民コミュニティデザイナー』の創設を提案
- (4) 学校設定教科「三国地域学」の開設**  
「三国の文化資源探究」「三国の環境資源探究」で地域をテーマにした発展的な探究学習を実施  
地域ボランティアや地域行事等への参加を「学校外活動」として単位認定



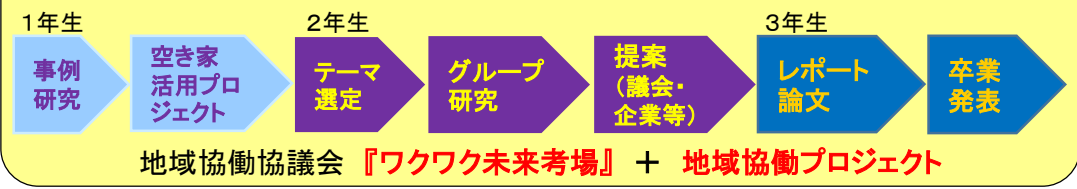
地域探究フィールドワーク



坂井市民文化祭 (書道部)

**ふるさとや自分が暮らす地域に対する誇り・愛着  
次世代の地域の担い手に必要な資質・能力を育成**

**【各学年における探究学習の主な流れ】**



**【AARサイクル(見通し⇒実践⇒振り返り)で育てたい力】**

- 生きて働く知識・技能
- 学んだことを社会に活かす力
- 多様な人との協力
- 困難に立ち向かう勇気と信念
- 答えの定まらない問いに対応する思考力・判断力・表現力

- 既存のものに新しい価値を見だし、
- 今までの常識にとらわれない新たな活用法を提案し、
- 地域の人々との行動で地域に幸せや希望をもたらす**イノベーション人材**を育成



三国町内温泉施設の看板 (美術部デザイン)

令和2年度の生徒数  
(本事業は全校生徒対象)

学科	1年	2年	3年	計
普通科	137	146	148	431

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要  
(令和2年度 新規指定校)

指定期間	ふりがな	ふくいけんりつみくにこうとうがっこう				②所在都道府県	福井県
令和2～最大3年間	① 学校名	福井県立三国高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	学年4クラスの小規模校	
普通科	137	146	148		431		
⑥研究開発構想名	「あったらいいね」をカタチにする！ ～ シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる ～						
⑦研究開発の概要	本校では、令和2年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、地域との協働による高等学校教育改革推進事業においては、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習のためのカリキュラムを開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標 本校の校訓は「心高かれ」である。生徒には、高い志を持ち、自分の能力を最大限に伸ばし、それを地域や社会のために活かすことができるようになってほしいというような願いを教員間で共有し、以下の令和2年度からの教育目標を新たに設定した。 <b>高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する。</b></p> <p>① 既存のものに新しい価値を見だし、 ② 今までの常識にとらわれない新たな活用法を提案し、 ③ 地域の人々との行動で地域に幸せや希望をもたらすことのできる人</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校がこれまで自治体等の協力を得て実施してきた地域活性化を考える探究学習は、地域から高い評価を得ている。今後さらに発展的な探究活動を実施するため、本事業では、生徒が地域にある資源に新しい価値を見出し、新しい発想で、地域人材とともに地域の活性化に資するプロジェクトの企画・実践に取り組む。「総合的な探究の時間」だけでなく、学校設定教科・科目を含む各教科・科目、さらには特別活動や課外活動の各場面で「探究」の視点を導入し、新しい価値を創造するコミュニティデザイナーを育成するための教育モデルを構築する。</p>					
	⑧-2 具体的内容	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>① 『地域協働プロジェクト』の実施 本校生徒が地域人材と協働して、地域活性化のためのプロジェクトを企画し、実行する。</p> <p>② 『ワクワク未来考場』の開催 コンソーシアム関係者や地域住民、中学生等と地域の未来等について懇談する。</p> <p>③ 『三国高校コミュニティデザイナー』の資格認定 『地域協働プロジェクト』の取組み成果に応じて資格を与える。</p> <p>④ 『空き家活用プロジェクト』の実施（1年生） 三国町内の空き家の現状について研究し、空き家の活用法を提案する。</p> <p>⑤ グループ別課題研究の実施（2年生） 外部講師や文献・資料等の活用およびフィールドワーク、『地域協働プロジェクト』等を通して、地域課題解決や地域活性化に資する課題研究を行う。</p> <p>⑥ 研究レポート等の作成・卒業発表（3年生）</p>					

	<p>2年次までの課題研究の成果を研究レポートにまとめ、発表する。</p> <p>⑦ 各種発表会等への参加 課題研究の成果を坂井市議会や地域住民等に対して発表する。また、県外で行われるフォーラム等に参加して課題研究の成果を発表する。</p> <p>⑧ 学校設定教科・科目の令和3年度開始に向けた準備 学校設定教科「三国地域学」、学校設定科目「三国の文化資源探究」「三国の環境資源探究」（令和2年度入学生2、3年次より）開始に向けた準備を進める。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>① 管理機関の担当者が定期的に学校を訪問し、事業の進捗状況を把握するとともに、必要な指導・助言を行う。</p> <p>② 運営指導委員会や三国高校地域協働プロジェクトコンソーシアム代表者会議を開催し、取組み状況を見ていただくとともに、関係者の意見や助言をまとめ、事業に反映させる。</p> <p>③ 地域協働プロジェクトコンソーシアムについては、参加する機関を新規開拓し、より広く地域の意見を取り入れられるように工夫する。</p> <p>④ カリキュラム開発等専門家に地域連携およびカリキュラム開発について指導してもらう。また、地域協働学習実施支援員を2名置き、コンソーシアムの各連携パートナーや近隣の企業との連絡・調整に当たってもらうとともに、大学生・短期大学生と協働の探究学習を企画・実施してもらう。</p> <p>⑤ 校内に地域協働プロジェクト推進室を新設し、事業の担当者として複数の教員を配置する。推進室は「総合的な探究の時間」や地域協働プロジェクトの企画・運営を行うとともに、各学年や校務分掌間の調整に当たり、学校全体のカリキュラムマネジメントの推進に当たる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 学校設定教科・科目を開設している。</p>
⑨その他特記事項	なし

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。

## 【研究開発の実施体制】

管理機関名：福井県教育委員会

### 1. コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者氏名
福井大学国際地域学部	木村 亮 (学部長)
福井大学地域創生推進本部	末 信一郎 (本部長)
福井工業大学	掛下 友行 (学長)
仁愛女子短期大学生活科学学科	禿 正宣 (学長)
坂井市総合政策部企画情報課	三上 寛司 (課長)
あわら坂井ふるさと創造推進協議会(アズ AS)	佐々木 康男 (会長・あわら市長)
アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)	土井 祥子 (チーフディレクター)
地域企業 (I I Oプロデュース株式会社 他)	伊藤 俊輔 (I I O代表取締役社長)
一般社団法人エシカル協会	末吉 里花 (代表理事)

### 2. カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	備考
カリキュラム開発専門家	石川 一郎	聖ドミニコ学園・カリキュラムマネージャー	③
地域協働学習実施支援員	澤崎 敏文	仁愛女子短期大学・准教授	③
地域協働学習実施支援員	川上 貴義	福井銀行三国支店・支店長	③

※「備考」欄には、本事業における活用の形態別に①～③のいずれかの番号を記入すること。

①常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校で常時勤務する者

②非常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校では常時勤務するものでない者

③ボランティア：本事業のために活用されるが、管理機関又は指定校から賃金・謝金等の支払がされない者（①又は②に該当する者を除く。）

### 3. 運営指導委員会の体制

所属	役職	氏名
金沢大学大学院教職実践研究科	教授	松田 淑子
共愛学園前橋国際大学	学長	大森 昭生
坂井市教育委員会	教育長	川元 利夫
福井県経営者協会	専務理事	峠岡 伸行

### 4. 経費

区分	金額 (千円)	備考
委託費	3 1 5 0 千円	
管理機関よる負担	5 5 0 千円	
その他		

※「その他」の欄を記入した場合には、備考欄に「寄付金」等内容を記入すること。

### 5. 本研究開発実施のための自財源確保の工夫 (※該当する場合は、回答欄に○印を記入すること)

区分	回答
本研究開発実施のために、企業版ふるさと納税制度を活用している	
本研究開発実施のために、ふるさと納材制度を活用している	